

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700349		
法人名	ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	嵯峨野ケアセンターそよ風 1F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1		
自己評価作成日	令和2年11月16日	評価結果市町村受理日	令和3年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&ijigoyosoCd=2670700349-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町2-1		
訪問調査日	令和2年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当センターは京都嵐山からやや北にあがった、自然に囲まれた風情のある静かな地域に位置していません。平成14年12月開設。館内の床は張り替えを行い、照明もLED化。16年の歴史と新しい雰囲気を持った施設です。、利用者様がゆっくりと穏やかに過ごせるよう、その人の持つっておられる能力を考慮し、手助けを必要とする部分を支援することを心がけています。また、(今年はコロナで中止でしたが)清涼寺で行われるお松明、五山の送り火鑑賞会、嵯峨祭の見学、京都マラソン見学といった地域のイベントから、定期開催のバイオリン演奏会やハーモニカ・ウクレレコンサート、音楽療法といった数々のイベント楽しんでいただく事ができます。「穏やかに安らぎのある暮らし」「心遣いや気配りの生活」「ゆったりと自由な時間」「地域と生きる私たち」という理念に恥じないように支援をしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は平成14年12月に開設した、近隣に観光名所や神社仏閣のある閑静な地域に位置しています。昨今の新型コロナウイルスの影響により、それまで盛んに行われていた地域行事への参加や地域住民とのふれあいも自粛している中、広い敷地内や周囲の散歩、玄関先にあるベンチでの日光浴など、外出機会を設け、現状でできる野外活動を実施しています。玄関ドアは防犯上の理由により施錠はしてあるものの、各フロアの出入り口の施錠もなく、エレベーターも自由に使用する事ができ、フロア間を行き来しています。2階のエレベーターホールは椅子や本棚を設置し、入居者がくつろげる環境になっています。食事は3食手作りを旨とし、フロア毎に毎食職員が工夫を凝らした調理を行い、下拵えや片付けなどを入居者と一緒に行っています。米寿・白寿のお祝い、お誕生日会などではバイキング形式の食事を用意し、行事を更に楽しめるよう演出しています。現状では入居者と地域との関りが難しくはありますが、自治会活動や地域の防災訓練に職員が参加し、できる範囲での地域交流も継続しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「穏やかで安らぎのある暮らし、心遣いや気配りのある生活、ゆったりと自由な時間、地域と生きる私たち」という理念を掲げています。職員は毎日、朝礼で理念を唱和し、意識するようにしています。	事業所独自の理念を掲げ、玄関やユニット入口に掲示し、職員や来訪者へ周知しています。また、毎日の朝礼で唱和することで理念を意識したケアができるように努めています。介護計画作成時にも、理念に則した計画になるよう、話し合いを重ねています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会にも、長年入っており、回覧板がまわってきたり、地域の保健委員を担当し、献血のお手伝いをしたりと、日常的に交流をしています。	自治会に加入し、広報誌を回覧するなど、地域との情報交流が行われています。敷地内の果物畑には季節の果物がなり、地域の方に管理をしていただき、収穫と一緒に楽しんでいます。また地域で収穫した野菜の購入やボランティアの来訪など、地域との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括が開催している、会議や研修に参加して発言をするなど、事業所の力を地域で生かしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、現在は書面開催となっておりますが、定期的に運営推進会議を開催し、提供しているサービスの内容や、事故、取り組み等、報告や話し合いを行っています。	コロナ禍のため、役所に確認をしたうえで、書面開催となっております。議事内容は、運営状況・イベントや事故の報告・各種連絡事項になっており、自治会連合会・地域包括・社協・民生委員に配布しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種書類の提出や、運営推進会議の議事録提出の際など、直接担当者とお会いし、情報交換を行うなど、連携が取れるよう努めています。	運営推進会議議事録は役所に出向き手渡しを行うことで、顔の見える関係作りを行っています。また、地域包括主催の事例検討会等にも積極的に参加しています。事業者連絡会等も招集があれば参加するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関については、防犯上施錠されていますが、それ以外は、身体拘束は施設として行わないと施設として定めています。研修も定期的に行っています。	「身体拘束等の適正化のための指針」を作成すると共に、身体拘束廃止・虐待防止検討委員会を設置し、毎月の委員会活動を実施しています。また、年間研修計画に基づき、4月と11月に研修を実施し、参加者は参加報告書、伝達研修では感想文を提出し、身体拘束に関する理解を深めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、身体拘束廃止、高齢者虐待防止委員会の開催を行っており、ユニットの現状について、乱れやすい声かけを含め、話し合いを行い、議事録の回覧を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、ご利用されている方もあり、概ね理解できていますが、日常生活自立支援事業については、あまり理解できておらず学ぶ機会も十分とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	センター長が契約の締結や解約を行っています。利用前より、十分な説明を行い、不明な点がないようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	センター長は玄関を入ったすぐの事務所において、家族様や、外部の方の面会の際など、直接対応する事も多く意見や要望を言いやすい環境となっています。	毎年8月に実施している家族会も、コロナ禍の影響により中止になり、家族意見を聴く機会が減ったことから、フロア職員からの電話連絡により、日頃の様子を伝えると共に、家族からの意見を聴き取るようにしています。面会も控えている事から、タブレットを活用したオンライン面会も始めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター長は事務所で一人である事が多く、また、職員は出勤時に事務所に立ち寄るようになっていたため、意見や提案を言いやすい環境となっています。	毎日の朝礼時に職員からの意見や提案を聴くと共に、毎月実施される、全体会議・フロア会議・リーダー会議でも様々な意見を聴取しています。また日頃から、センター長・管理者・フロアリーダーに直接意見を言える関係性ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	センター長との面談があり、職員がその時々思いを伝えられるようになっていました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー会議にて、各ユニットの担当者より、職員の育成状況や勤務状況をセンター長に報告しており、新人の育成や、職員の課題や様子など、センター長に伝わるようになっていました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や、会議等を通じ同業者と交流する機会設けられています。現在はコロナで中止となっていますが、食事会にも参加をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ずご本人様と個人面談し、要望等聞いています。その情報をもとに、サービスを提供しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とも、事前に必ず面談を行い、要望をお聞きしています。常に良好な関係でいられるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談を通じ、どのようなサービスを本人、家族様が必要とされているかを確認し、必要なら自サービス以外も含め、利用者様第一で対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができない事を介護職員はお手伝いをし、一方的な介護とならぬようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は、コロナの為、家族様の面会を控えていただいているという面もありますが、介護職員だけが支援を行うのではなく、日ごろの様子の確認や外出支援など、ご家族様にも協力していただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が面会にこられる方や、家族と一緒に馴染みの散髪に行かれています。おられます。(コロナの影響を受けています。)	お寺やお墓へのお参り、家族の経営する喫茶店への訪問、友人知人の面会など、様々な取り組みが行われていたのですが、コロナ禍の影響により断念せざるを得ない状況になっています。家族協力での受診後に買い物を買ったり、馴染みの店で散髪されたりする方もいます。孫の結婚式に職員が協力し、オンラインで参加され喜ばれた事例もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者様、それぞれの性格を把握しており、皆様が穏やかに過ごせるようお手伝いをしたり、配慮を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	叔母様が嵯峨野を利用された後、その後も音楽のイベントをして下さる等関係が続き、その後、お父様も介護を必要とられた際、再び嵯峨野をご利用されるようになったご家族様もおられます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃、生活を行う中で思いや希望の把握に努めています。押しつけとならぬよう、希望に沿って接している。	入居時のヒアリングによる想いの把握に加え、入居直後の数日間の関わりを記録に取り、本人の思いや意向の把握に努めています。また日頃の関りの中で得られた情報は、申し送りノートを活用し、職員間で共有しています。	一人ひとりの入居者毎に、本人の意向や思い、日頃の関りで得た情報等を確認できるような工夫が望まれます。センター方式等の書式を活用されてははいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より、ご家族様や、ご本人様、ケアマネ、利用中のサービス事業所より情報をお聞きし、シートを作成して職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子より、気づいた事を職員間で申し送りをしたり、毎月の会議やアセスメントで分析したりと、一人一人の能力や生活の様子、個性を把握しそれぞれに合わせたケアを行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の様子をもとに、カンファレンスを行い、医療面、家族様よりのご意見、介護職員の意見を踏まえ、新たな介護計画を作成しています。	短期目標を概ね6ヶ月とし、この期間に合わせて介護計画の見直しを行っています。モニタリングは計画作成担当者が短期目標の期間に合わせて実施していますが、今後は毎月の実施に変更する予定となっています。介護計画の見直しの際には、往診時の医師の意見も参考にしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPADによる記録や、申し送りノートによる記録等を通じ、日頃の様子や、気づきを職員間で共有、対応ができるようになっていきます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の様々なニーズにこたえられるよう対応していますが、グループホームのサービスの範囲内と思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣で、高齢者への体操教室や、カフェが開催されていたりする事等、様々な地域資源がある事を承知していますが、現在は、活用までは、出来ていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、それまでのかかりつけ医を継続する事ができる事を説明。センターと提携している医療機関を利用されている方他に、今までのかかりつけ医を継続して利用されている方もおられます。	入居前のかかりつけ医の継続ができることを説明したうえで、協力医療機関への変更を選択してもらっています。継続的に専門医の受診をされる方は、家族協力のもとで受診支援をしていますが、職員が付き添いをされる場合もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職はいませんが、訪問看護ステーションと提携しており、24時間体制で相談できるようになっており、週に一度、訪問も受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、施設よりサマリーを病院に提出したり、病院、家族様と連絡をとり、治療内容や経過の把握を行ったりしています。病院は地域連携室、センターはユニットリーダーと窓口をほぼ固定し、しっかりとした関係ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期に向けたセンターの指針について説明を行っています。また、利用者様の変化に合わせ、センター、家族様、医療関係者で話し合いを行い、その都度、方向性の確認や共有化を行っており、見取りも行っています。	「重度化した場合の対応・急性期における医療連携指針」を作成し、意向確認及び同意を得ています。看取り実績も多く、年1回の看取り研修も計画的に実施しています。入居時の意向確認とは別に、終末期に入られる際に、再度意向確認を行っています。	「その時に慌てないように」と看取り研修を実施し、実績も多くありますが、看取り後の職員の精神的ケア等まで視野に入れた研修体制が求められます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを定めており、また、事故の際には報告書にてどのような対応や行動をしたかを共有化しており、適切な対応ができるよう備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練とともに、消防署の立会いの下での訓練も実施を行っていますが、全職員が対応を身に付けているとは言えない。	消防署協力での消防訓練が年2回(内1回が夜間想定)実施されています。また、自然災害時は避難ではなく、事業所内に留まる事を想定した災害マニュアルを備えています。飲料水やそのまま食べられる食品を1週間程度、またカセットコンロや懐中電灯の備蓄もしています。	ここ数年の台風等の自然災害を想定し、停電を想定した訓練も実施されてはいかがでしょうか。また、発電設備を備えている事から、この実効性の確認も必要と考えます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月、身体拘束廃止、高齢者虐待防止委員会の開催し、職員の対応や声かけが適切に行えているか検討しています。問題がある場合には、注意をしたり、センター長が面談を行うなど、利用者様の尊厳とプライバシーを守るよう努めている。	年間研修計画に基づき、個人情報保護・プライバシー研修を実施しています。職員は、トイレ誘導や排泄介助、居室でのおむつ交換等の際には、プライバシーに配慮したケアを行うよう心掛けています。不適切な声掛け等を見かけた際には、職員同士で注意し合える環境になっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の主体は利用者様であり、職員は出来ない部分をお手伝いするように心がけており、利用者様が日頃より、自分の思いにそって自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝四時頃に起きて部屋で新聞を読み、お茶も部屋に持ってきてほしいというような要望をもっておられる利用者様もおられますが、本人様の希望にそったペースで過ごせるよう援助を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前よりのかかりつけの美容院を継続されている方もおられます。また、家族様には、利用者様が以前より着ておられた洋服をお持ちいただくなど、その人らしい装いができるよう支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食べる力に合わせたお食事をリビングに隣接した台所で利用者様から見えるように調理をしています。盛り付けや食器洗い、片づけ等に利用者様が参加してくださっています。	3食手作りでの食事提供になっています。朝食はパン食を織り交ぜ、飽きのこない食事になるよう配慮しています。1階から3階までのフロア毎に、その日の食材を見ながら、献立を決めています。食材の購入もフロア毎に近隣のスーパーにFAXで注文をし、配達をしてもらっています。食事の下処理や後片付けなど、入居者のできることを職員と一緒にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食やムース食。ダイエットの為の少な目の食事や補助栄養食を追加している方など、各利用者様の要望や状態に合わせた対応ができるよう支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医療機関である西沢歯科の指導に従い、各利用者様の口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、日頃接する中で利用者様の排泄のリズムを把握しており、尿の頻度が多い利用者様は、回数を多く誘導するなど、清潔で快適な排泄となるよう援助行っています。	基本的に、おむつを使用しないよう支援をしていますが、寝たきりの方や、トイレでの座位が保てない方などは日中もおむつを使用しています。排泄チェック表によりパターンの把握をして適宜声掛けを行い誘導を行っています。自立されている方には、それとなく様子を確認することで、排泄状況を把握できるよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜が多めの食事や、しっかり水分補給する事、規則正しい生活等、便秘の解消を心がけていますが、下剤によるコントロールも併用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状では、施設で決めた時間帯の中で、利用者様に声かけを行い、希望される方の入浴を行っています。その日の気分により、今日はやめとくわと辞退される方もいらっしゃいます。	週2回の入浴を基本とし、おやつの間までの間に本人の希望や様子を伺いながら、臨機応変に対応をしています。ゆず湯や入浴剤を使用して、季節毎に入浴を楽しめるよう工夫しています。本人からの要望があれば、シャンプー等も好みの物を使用してもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間になったから一律で休んでいただくというのではなく、利用者様毎に、眠たくなった時間に休まれています。朝、3時頃より起きて本を読まれているご利用者様もおられます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より、薬の内容や副作用などを詳しく記載した処方箋を受け取るとともに職員が説明を聞いて共有化。また、受け取った処方箋を一覧でファイリングし、確認しやすいよう工夫を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、各利用者様の能力、好きなこと、得意な事、苦手な事等把握しており、お一人お一人に合わせたサービスを提供しています。飲み物一つをとっても、コーヒー、紅茶、お茶を好みに応じてお出ししています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人のその日の希望に沿った外出支援は難しいですが、希望に応じて散歩に行くなど日常の範囲での外出支援は行っています。	コロナ禍の影響により、外出やイベントを控えている状況ですが、広い敷地内での散歩や、玄関前のベンチで日光浴をするなど、感染症に配慮した外出機会を設けています。状況が落ち着くのを待ち、以前から実施していた、植物園や花見、隣接する嵯峨釈迦堂のお松明の見学など、外出の機会を待ち望んでいます。	やむを得ない状況での外出自粛を行っていますが、入居者の気分転換や日常生活の継続を視野に、感染症対策を十分行ったうえで、近隣へのドライブなど、外出機会を創出する工夫を今一歩進められては如何でしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っており、お金を所持されている方はありますが、使う機会はほとんどない状態となっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に手紙を書いたり、電話をされたりしている方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内は窓が大きく、障子もあり、明るく落ち着いた雰囲気となっています。部屋やリビングの窓からは四季を楽しむことができる景色を見る事も出来ます。館内の飾りは毎月季節に応じた物に変更をしています。	1日に数回の換気を欠かさず行い、感染症や臭気の対策を行っています。陽当たりがよく暖かみのある空間になっており、リビングやエレベータ前のホールには職員と一緒に作った季節毎の飾りつけを行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お食事を食べる席の他にソファも設置されており、外を眺めたり、仲の良い方とゆったりと過ごせるように工夫がされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の前より、本人、家族様に説明し、使い慣れた馴染みのある家具をお持ちいただいたり、過ごしやすい部屋となるよう配慮を行っています。	入居時に馴染みの物の持ち込みをお願いしており、仏壇やお気に入りの椅子やテーブルを持ち込まれ、安全面に配慮したうえで、個性的な設えになるよう工夫しています。シンプルなお部屋の方もおられ、今後の工夫が期待されるところです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム専用に設計された建物となっており、各所に手すりがあり、段差もなく、トイレも広く設計されており、車いすの方でもご自分で行きやすい等、一人一人が自立した生活を送りやすいよう工夫されています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700349		
法人名	ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	嵯峨野ケアセンターそよ風 2F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1		
自己評価作成日	令和2年11月13日	評価結果市町村受理日	令和3年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私共、事業所は、西山の麓、嵯峨野に位置し、自然に囲まれ寺社仏閣、数々の遺産が、周囲にございます。四季折々の表情を感じつつ日々、お客様と過ごしております。当事業所では、食事を、冷凍、宅配、レトルトに依存せず、豪華な食事では、ありませんが、手作りを重視し職員それぞれ得手不得手ありつつ作り、お客様と共にワイワイ食事を楽しんでおります。現在お客様の介護度、平均年齢上昇に伴い、終末期に差し掛かり、御家族、医師と看取りについて話し合う事が、自然と増え、実際の看取りの場面も増えてきています。各職員が現場を見、体感し、話し合い、その事を全体に共有して、看取りにも力をいれております。現在コロナの影響から中止しておりますが、定期的に、バイオリン演奏、ハーモニカとウクレレ演奏、音楽療法、季節毎のイベントもしております。自立支援、尊厳、安全安心、説明と同意という基本を、大切に24時間365日お客様と共におります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&IjyosyoCd=2670700349-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	令和2年12月21日		

1Fに同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼にて、会社の理念と事業所の理念唱和し振り返り、共有している。またそこから援助に対する意識作り意義の再確認としている。	1Fに同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	嵯峨野地域との交流を持ち維持出来る様に、運営推進会議、回覧、事業所発行物等で、呼びかけをし、自治8参加等により地域の役割を担いつつ、地域の嵯峨祭や敬老交流会等の各種イベントへの、お誘い頂き参加、関係性を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方に参加して頂き認知症ケア実践例の紹介、質疑応答等を行い、認知症の理解、支援の在り方等を知って頂ける様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の状況、外部評価や家族アンケートの結果報告、イベント活動や事故などの報告等きっちり行っています。その中で様々な意見をいただくことで、サービスの向上につなげています。また、家族様への資料送付等し報告も行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者へ、定期的に報告を行っている。地域ケア会議、区のケアマネ連絡会やサービス事業者連絡会等、地域の会合に積極的に参加し協力関係の構築に日々努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会を毎月実施している。研修も行い、日頃、支援をしていく中で、知らないうちに身体拘束・虐待を行っていないか話し合いをしている。またスピーチロックに関しても、重点に話し合いをしています(お客様のプライベート意識からの居室自立的施錠はある)。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、虐待防止会議を行い、議事録の配布、年二回の職員全体研修や虐待等に関連するニュース・事例があれば、回覧を配布を行い、虐待に対する意識や知識を、常に持ってもら環境作りに努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についてある程度理解している職員もいますが、成年後見制度の勉強会は、事業所では現在開催されておらず、理解が十分とは言えない(年に一度全体会議で研修開催、不参加者のレジュメ読み込みを行っている)。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、改定等の場合には、利用者様や家族様にお時間をいただき、不安や疑問点を伺い説明を行っています。その上でご理解、了承のうえ、同意をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に数回、家族会を実施またアンケートも実施し、家族様の意向を聞ける様にしている。面会の時に、意見や要望を直接お聞きできる機会も設け、お聞きした事は申し送りノートに記載し職員で共有し、反映できるように努めています(コロナ禍の為、電話連絡増やしている)。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、リーダー会議、フロアミーティング、全体会議があり、順番に意見傾聴、フィードバックし、その場にセンター長、管理者が参加、運営の報告意見交換を行う時間とし、都合付け、フロアミーティングに他フロアリーダーが参加している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員はセンター長・管理者を含め二十数名であり、各職員の実績、勤務状況などに把握することができています。その上で定期的に面談を行い、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内の研修を受ける機会を設けられています。全体会議でもテーマを決め、研修を行いスキルアップにつなげています。ユニット内での新人育成の環境を整え、フロア間共有、職員の学びを作り離職軽減に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会があり、各施設との情報共有を行いながら、フィードバックしサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、どのようなサービスを希望されているか家族様含め傾聴し、施設が提供できるサービスについても説明し、信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や問い合わせなど、サービス利用を考慮しておられる時点から、十分な説明や要望の確認を行い、信頼関係をある程度築いた上でサービスを開始できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネと相談したり、家族様、本人と面談を行い、今どのようなサービスを利用される事が良いのかを本人の現状を把握したうえで支援をおこなっています。場合により、他のサービス利用をお勧めする事もあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントを行った上でご利用者の必要とする部分について、職員は支援を行うようにしています。生活の中で、馴染んでいることや得意なことを活かしながら、暮らしに寄り添う関係を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の現状について、家族様に連絡を行い、可能な範囲で家族様のご協力をいただいています。日頃の生活を見ていただける機会としてイベントなどにもお誘いし、共に支えあえる時間を共有できるように支援しています(コロナ禍の為、細目な連絡)。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人の方が面会に来る際には、利用者様と一緒に気持ち良く過ごして頂けるよう配慮を行い、来所しやすいよう雰囲気作りをおこなっています、また残存能力を把握し、生活歴から普段している事を少しでも頂く様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、関係に支障がある場合には、職員が間に入る等配慮しながら利用者様が、円滑に共同生活がおくれるよう援助をおこなっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、必要に応じて相談や支援ができるように努めています(実際手紙を頂く、家族会で、経験を話して頂く、音楽演奏ボランティアして頂く等がある)。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者様、家族様の希望や意向の把握に努めています。得られた情報については、申し送りノート等で職員間で共有、意見交換生活歴等も併せ、一つ一つの行動からアセスメントし接し方にも生かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様、本人様、ケアマネ等連絡をとり、サービスの利用前より情報の取得に努めています、入居後もご家族と連絡取り合い、その中からヒントを得る事が、多い(お客様の話から派生し、世間話等からも)。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の利用者様の生活ペースを理解し、把握して職員ペースにならないように努めている(適切な距離感保ちつつ、家という環境構築)(廃用性症候群防止の観点)。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の様子から、モニタリングを行い、職員と共有している。家族様に事前に連絡や面会時や、前回のケアプランに手紙を添える等し要望を傾聴、話し合い、それを反映させて介護計画の作成を行っています(本人との会話も盛り込む)		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は各種記録や申し送りノートを活用し、情報の共有を行っています。利用者様に大きな変化があれば、介護計画内容の見直しを行っています、また独自の支援にならない様に、相互確認や面談にて適正な支援になる様に努める。ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携病院、訪問看護ステーションや鍼灸マッサージ、イベントボランティアなど、施設が提供するサービスだけでなく、他のサービスも本人や家族様の希望に応じ連携をとり、利用者の生活の質の向上につなげています(リハビリを受けさせたい等の要望もある)。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区社協、地域包括、ご近所の皆さん、ボランティアの皆さんなど様々な方に協力いただきながら、地域行事にも参加させていただいています。利用者様が穏やかな暮らしを過ごせるよう支援しています(コロナ禍の影響大きい)。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所が提携している病院で、医療支援を受けられます。また、今までのかかりつけ医を希望される方がおられましたら、入居後も継続して診察はできるようにしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の他に、訪問看護ステーションの看護師と連携がとれており、週1回訪問していただき、日常の様子などを報告している。また、迅速な対応が出来るよう、24時間相談できる体制が整っている(救急対応マニュアル整備している)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今までの医療の経過が蓄積されており、本人様、家族様の要望を理解した、医療がうけられるようになっていきます。入院中は、職員がお見舞いに行き、経過状況を確認している。病院、センター、家族様とで面談を行い、早期退院に向けた取り組みに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針について、家族様に説明し、同意書をいただいています。また、状況変化時はご家族様の意向を再度確認し、医師との連携を取りながら、終末期についての話し合いの場を設けている、また各職員の実体験の共有、話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備改訂し、緊急対応ができるよう努めている(全体会議研修ある)(単独外出時の対応机上訓練)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や消防訓練を行っている。訓練では、お客様にも参加して頂くこともあります。また、食品としては備蓄品を倉庫に保管をしています(昼間と夜間想定)(実際に右京消防署の方に来て頂き訓練が年一回)(AED使用訓練)		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に、接していません。接遇研修や、支援の乱れ等あれば個人面談実施、各フロア間の発生事例からの話し合いをフロアミーティングで落とし込みもやっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話や行動、表情などから思いをくみ取り、自己決定を導きだせる支援に努めている(新人職員からの先輩職員の支援への問題提起により不適切支援の是正、旧態依然な支援(措置的)解消が、大きく進んでいる)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞く、推し量る、表情から読み取る等し希望に添えるよう支援している。外出など、希望に添えていない部分もあるので、より良くしていきたい(業務の前倒し、見直しにより、お客様との時間を少しでも増やし、寄り添える様に努めている)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選ぶ機会や、選べない方は職員が、その方にあった服を、コーディネートするなどの支援をしています(男子職員は苦手な点もある)(自分なら汚れたら替えるという当たり前の意識を大切に、当たり前な清潔綺麗な状態をいじっている)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度のご利用者様が増え、一緒に料理作りをするというのが難しくなっているのが現状です。食事を楽しんでいただく観点として、色彩や匂い、その時に召し上がられたい物や、季節感がある物など考慮し献立を行っています(固定観念なく食事を提供している)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に合わせた支援をしている	医師の判断に基づき、各人にあわせ水分量、栄養バランス等注意し食事を提供しています(お客様の一日の行動量に即した食事量になっていない、固定観念がある)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前には口腔内清掃を行っている。月に2回、歯科往診も受けながら口腔内の点検、清潔保持を行っています。また、口腔衛生管理体制加算を実施し、歯科医から口腔ケアに係る技術的な助言及び指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間記録することで一人ひとりの傾向を把握し、個々に合わせた排泄ケアを行っています。適切に誘導や交換をすることで、トイレでの排泄促進、おむつの使用を減らすとともに不快な時間の削減、清潔な状態の維持につなげています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の記録行っており、便秘傾向方には水分量、牛乳やヨーグルト、繊維質など、自然排便をうながす取組をおこなっており。必要に応じ、下剤の使用も行っている又、少しでも歩ける方は、歩く、身体を動かす様な関りに努めてい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は、午後からの入浴になっています。その中でも、ゆっくり入浴されたい方など、時間帯を考慮して、リラックスして楽しんでいただける時間を提供させていただいています(人員により午前浴実施)。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムを把握しており、その時々の利用者様の様子を考慮し、居室やソファ等でゆっくりとさせていただける、環境を作っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師より、個々に服用している薬の説明をうけとっており、薬の目的や用法、副作用については概ね理解できています。要観察し変化などあれば報告している。誤薬などないよう、与薬・セット時は2重チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の嗜好について把握しており、各利用者が日常生活を楽しんだり、活躍できるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援は、重度化により難しくなっている現状がありますが、花見、祇園祭見学や紅葉など季節折々の際には、利用者様に楽しんで満足していただけるようドライブや散歩などの外出行っています(コロナ禍の為、ドライブを主に、また、そよ風農園摘果や園芸、外気浴実施)。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じて金銭を所持していただく事は可能ですが、実際に使っていただく場面は少なく、センターでの管理となっている。外出の際に小遣いを、もっていらおうなど、今後工夫をしたいと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の能力に応じて電話や手紙を出したりする事を職員も支援を行っています。届いた手紙に返信される方もあります(手紙を、読み聞いて頂く)。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	障子や格子戸など、館内は和風のゆったりした雰囲気となっています。壁には季節の飾りやご利用者様のイベント写真などもはり、利用者様が落ち着いて過ごしていただけるよう工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファを効率的に配置しており、少人数で仲の良い方とゆっくりしたり、また、テーブルを動かせば大人数でイベントを行う事もできるよう、工夫されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居説明の際より、施設の部屋は利用者様の自室である事を伝え、出来るだけ使い慣れた馴染みのある家具を持ち、雰囲気作りをしてくださるよう、お願いしており、職員も安全に配慮の上、お手伝いをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が分かりやすいよう、表札やトイレの案内をつけています。また、手すりも各所に設置し、利用者様が持つておられる力を使い、生活しやすく安全に生活が出来るように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700349		
法人名	ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	嵯峨野ケアセンターそよ風 3F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1		
自己評価作成日	令和2年11月15日	評価結果市町村受理日	令和3年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanietue&JiqyosyoCd=2670700349-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21
訪問調査日	令和2年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当センターは京都嵐山からやや北にあがった、自然に囲まれた風情のある静かな地域に位置しています。利用者様がゆっくりと穏やかに過ごせるよう、その人の持つおられる能力を考慮し、手助けを必要とする部分を支援することを心がけています。また、清涼寺で行われるお松明、五山の送り火鑑賞会、嵯峨祭の見学、京都マラソン見学といった季節にあったイベントから、バイオリン演奏会やハーモニカ・ウクレレコンサート、音楽療法といった数々のイベントがセンターで過ごされる利用者様の日常生活に楽しみをプラスしており、職員も共に楽しんでます。コロナ禍における感染予防対策は徹底しておりますが、その中でも可能なイベント開催や家族とのコミュニケーションの機会を持っています。センターの理念である、「穏やかで安らぎのある暮らし、心遣いや気配りのある生活、ゆったりと自由な時間、地域と生きる私たち」という理念を大切に、利用者様の生活のお手伝いをしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

IFIと同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果(3F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて毎朝、理念を唱和し、共有している。	1Fと同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	そよ風便りを月に1階地域へ向け、発行している。発行ペースと内容を以前より充実させています。面会の機会が減っている中で普段の様子を知って頂く重要な内容となっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会を設け、実際にセンターで起きた事例や、認知症の勉強会を開いている。連携している病院の医師や訪問看護の代表の方に講師になって頂くこともある。コロナ禍により機会を作りづらくなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の行事、事故、課題等を報告・相談させて頂き、他施設の立場や地域の方からの視点で意見を頂き、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に参加したり、役所に事故の報告書を直接届けたり、ケアマネ連絡会に参加したりして、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を目的とした行為はしていない。玄関は防犯上オートロックとしている。ユニットの入り口に手動の鍵を掛けることがあったが、徐々にその時間を少なくし、現在は施錠しないようになった。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で学ぶ機会を設けている。互いに注意し合えるよう、職員同士の関係を良くし、風通しの良い雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議で学ぶ機会を設けている。まだ十分とは言えないため、さらに職員の知識を増やしていきたい。制度を利用されている利用者様の対応を通じて学んでいる部分もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時に面談をし、不安や疑問点なども伺い説明をさせて頂き、理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時のご意見を職員・管理者で共有し、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター内では毎月の全体会議や日々の業務の合間に、よく意見交換がなされており、全体に通じる提案などは全体会議で議題にしている。センターと会社は事業部を経て相互に意見話し合いをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員補充など職場環境の整備に向けて努力している。会社としてもリフレッシュ休暇を導入し環境・条件の整備に努めているが、十分に活かせていない部分もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けているが全員が対象ではないので、事業所独自で全体会議の場でも研修を行っている。他、ユニット内でチームとして新人を育てていく環境を整えたり、個人的にも研修に参加できるように案内している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内での事業所間交流の機会は各種会議等、で機会を作れている。他法人との交流は充分とは言えない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実調面談にてご本人とお会いし、思いに耳を傾けている。入居後もご本人からよくお話をお聞きし少しでも不安を和らげるよう職員間で情報を共有しご本人の安心に繋げるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階から、できるだけ多くの情報を聞き出し信頼関係の構築に努めている。担当ケアマネとの情報交換も欠かさないようしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を検討された経緯、何に一番困っているのか、何が一番不安なのか、等を聞き取り、最善の支援ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に家事をしたり、一緒にお茶を頂いたり会話したりしながら、一日を過ごして頂いている。できることはして頂いて、できるだけ自分で決められるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さな事であってもご本人の様子や変化をお伝えし、認知症についての助言もしている。どのように支えたいかを家族に聞きケアに反映させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙、お届け物等はお本人にお伝えしている。友人、知人の面会や馴染みの場所への外出は現状充分とは言えない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の会話によく耳を傾け、関係を把握し、個々の性格を見極め、職員で意見を共有し、利用者様それぞれが本人らしさが出せるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後であってもイベントをお手伝い等参加して下さるご家族もおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に把握に努めている。ご自身で思いを表すことが困難な場合が少なくないが、利用者様の様子や発せられた言葉などを記録に残し、カンファレンスで本人本位の視点から職員で話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居後ともに、ご本人やご家族や以前の施設等から情報収集をし、また、入居後もご本人からお聞きしたことを職員間で共有し、ご本人らしい生活をして頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の一人ひとりの様子を、申し送りノートや個別の経過記録へ記載したり、口頭で申し送ったりすることで職員全員が把握できるようにしている。また、気になったことは「気づき」としてノートや口頭で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際に、職員でカンファレンスを行い、ご本人のしたい事は何か、その為に何を支援すべきか、ご家族の意向も含め話し合っている。家族や連携機関の方のカンファレンスへの参加が課題となっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や対応を記録し申し送り、情報共有している。職員は、気づきがあった時にその場の職員同士話し合いケアの工夫をしており、その方にとってのよりよいケアの実践と見直しを日々行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の業務フロー・ケアプランは決まっているがその日によって利用者様の状態が異なることも多いので、職員がその場で判断し臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は地域イベントへの参加も行っているが今年の状況下では難しく地域との繋がりも希薄になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院と連携し、受診できる環境を整えている。かかりつけ医を希望されている方は受診を継続できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院の往診(隔週)や訪問看護(週1回)の際に随時相談し、指示を頂き対応している。24時間相談できる状態にあり実際に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院やご家族と連絡を取り情報交換を行っている。また退院後も病院側からサマリーを頂き、退院後の生活に支障のないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や早い段階からご家族に終末期について考えて頂くよう促したり話し合いの場を設けたりしている。また、提携病院とも話し合いの場を設け、医師、看護師、ご家族、場合によっては職員も含めて終末期のケア方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	十分な訓練の機会是用意できていない。実際の経験を積むことで実践力を付けていっている状況。対応に関しては定期的に職員間で確認し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行っており、消防署の方にも来て頂いている。全員が同時に訓練を受けられないので受ける人数や訓練の機会を増やしたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、接遇マナーについて全体で勉強会をしたり、チェックリストにて自己点検、それをユニット会議で確認し合ったりすることで共通意識を高めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方その方に応じて、決めていただく、選んでいただく、こちらが察知する、などして支援している。その方の表情などをよく観察して思いに添えているのか考えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様お一人おひとりによって、またその日その時によっても、どのように過ごされたいか異なることを職員全員が理解し、希望にそった支援をするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選び、整髪など支援している。月に1度の美容院でカット、希望によりパーマ、毛染めにも対応している。化粧や外行きの洋服を楽しむ機会はまだ持っていないので増やしたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや特徴など職員が把握しており、食べやすいような提供方法の工夫、季節を感じられる食材を取り入れる工夫などしている。できる方には盛付や配膳、片付けなどほぼ毎日して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や形態など一人ひとりに対応した提供方法をとっている。食事や水分が入りにくい場合は、お好きな物や摂りやすい物を一人ひとりの特徴に合わせて提供して栄養が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後と夕食後は全員行って頂けるように支援している。日中は口腔内に食べ物が溜まりやすい方などはその時々に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適切なタイミングでのトイレ誘導やパット交換を行い、自立支援やパットの不快感の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ食事(便秘の方にはヨーグルト・牛乳・納豆・繊維食材を積極的に摂っている)や運動にて対応、次いで主治医に相談し内服での対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人あたり週2回程、時間帯は主に午後設定させて頂いているが、その中では時間の制限はせず、ゆっくりくつろいで頂けるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分で入床・起床できる方についてはご本人の意思に合わせている。ご自分で表現できない方については表情や歩き方等からのサインを読み取り、お疲れの時は休んで頂くなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を読み目的や副作用、用法や用量などについてよく認識するよう努めている。服薬時は十分な注意を払い、間違えないよう、日付や利用者様名を声に出して確認している。服薬後の様子は往診にて随時報告・確認できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	文化祭等での作品の制作やき活きとした姿を引き出せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や外気浴をしているが、遠出や個別ではなかなか出かけられていない。コロナの状況が刻一刻と変化している中、対応も柔軟に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理している。施設のイベントや近所のお祭や個別レクなどで買い物する時にはご自分で買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	やりとりをされる際には電話の隣で見守りしたり年賀状の返事を書かれたりする際の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をテーブルに飾ったり、季節の果物を収穫したり、各居室の表札に月替わりで変化をつけたりして、季節感を感じて頂けるようにしている。一人ひとりの生活に合った動線の確保や家具の配置なども工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファでゆっくりされたり、仲の良い方同市でおしゃべりされたり、基本、皆様思い思いの場所でくつろいでおられる。必要な場合は、職員がフォローに入り、一人ひとりの居場所づくりの支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っておられた家具を継続して使っておられたり、思い出の品など飾っておられたり、馴染みのものを持ち込んで居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今日の日付、今月の行事予定、場所の案内などを表示することでご自分で日付などを確認できる支援ができています。自由にエレベーターで各フロアを行き来して頂いている方もいます。		